吉岡進の釣りを楽しく感じるままに

E2F

Enjoy Every Fishing no.10

外房大原の一つテンヤマダイ

撮影◉本誌編集部

▲当日の釣り場は御宿沖の水深15～35メートル前後

★当日は300～500グラム前後のマダイがよく釣れた

2024年もよろしくお願いします！

◆本編（52ページより）は高橋剛が執筆。船釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします！

▶アンダーハンドでテンヤを投げて広く探る

▲ボコンとマダイが浮上して大地船長がスパッと取り込んだ

よく引いた～

▲当日最大2.2キロのマダイ

▶朝イチに1キロ級のマダイが上がった

前半は潮が動いて船中のあちこちでマダイがヒット！

ヨッシーこと吉岡進がルアー釣りを中心に色いろな釣り物を狙い、毎回釣りの楽しさを伝えていく当連載「Enjoy Every Fishing（略してE2F）」。

第10回はヨッシーが得意とする一つテンヤマダイ。小型を中心に数が釣れていて、ゲストも豊富な外房エリアへ釣行した。

釣れるマダイは300～800グラム前後を主体に1～2キロ級交じりで好日にはトップ2ケタという釣れっぷり。ゲストも多彩でワラサやヒラメ、カサゴ、メバルなどが釣れている。

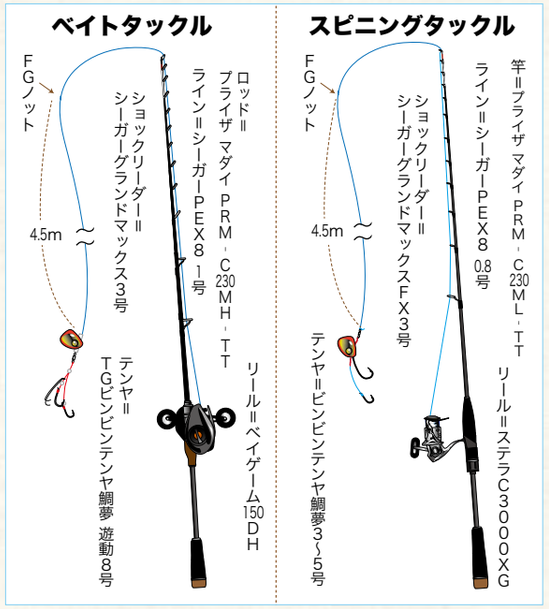
★3号テンヤのスローフォールに食ってきた

▶1枚釣れてひと安心
◀1流し目で500グラム級
▼薄暗いうちは潮が流れて食いがよかった

Enjoy Every Fishing Tackle & Lure guide

一つテンヤマダイタックル

◉タックルの使い分けはテンヤを投げて広く探るときはスピニング、船下を狙うときはベイト。スピニングタックルは固定式のビンビンテンヤ鯛夢の3～5号を使い、少し浮いているマダイを、ベイトタックルはTGビンビンテンヤ鯛夢 遊動の8号を使い、底付近にいるマダイを狙う。



▲仕掛けを回収している途中で食ってきた

▲後半は潮が止まり食い渋る中、コンスタントにマダイを釣るヨッシー
◀2枚目をキャッチ。少しだけサイズアップ

▲小型のマダイは抜き上げて船内に取り込む
▶ヒデさんこと宮本英彦さんに偶然出会い、一緒に釣りを楽しんだ

★マダイがヒットすると強烈な突っ込みを見せる

▲▶右舷と左舷で背中合わせで釣りをしていた二人に同時ヒット。右舷ではカスザメ、左舷では4キロのヒラメが上がった

◀リフト＆フォールで底付近をていねいに探った

◉主に固定式のビンビンテンヤ鯛夢3号と5号を使用。カジメ帯など根の荒い場所は軽いテンヤにすると根掛かりを軽減できる

一つテンヤの釣り方

リフト＆フォール

◉根が荒い場所ではキャストして横に引っ張るとすぐに根掛かりするので、根をかわすためリフト＆フォールでなるべく縦の誘いを意識して底から1～2メートルを探っていく。当日はこのパターンがハマりよく釣れた。

根をかわせるとアタリがくる

12月下旬に釣行したのは周年マダイを狙って出船している外房大原港の新幸丸。船長が向かった釣り場は御宿沖の水深15～35メートル前後でパラシュートアンカーを下ろしてスタート。

開始早々に1～2キロ級のマダイが船内で立て続けに上がり、4キロのヒラメも顔を見せて盛り上がる。

ヨッシーは3～5号テンヤを付けたスピニングタックルを手にアンダーハンドでキャスト。底から2メートルの範囲をリフト＆フォールで探って300～500グラム前後のマダイを次つぎに釣り上げていく。

後半になると潮の流れが緩く船があまり動かなくなったため、ドテラ流しで再開。根掛かりが多い場所に差しかかり同船者が苦戦する中、ヨッシーは小さなアタリをとらえて順調に数をのばしていく。詳しくは52ページから始まる本編にて！

船宿インフォメーション information

外房大原港 新幸丸

☎0470・62・1500
（詳細は巻末の情報欄参照）

◉親子三代で周年一つテンヤマダイへ出船。新一船長と大地若船長が親切ていねいに釣り方を教えてくれるし、貸し道具も充実しているのでビギナーにもおすすめの船宿。大船長が作るカブラ(受付で購入可）は釣れると評判だ。

◉料金＝一つテンヤマダイ乗合一人1万3000円（エサ、氷付き）

◉備考＝5時集合、集まり次第出船

▲広い船内でゆったりと外房の釣りが楽しめる

▲船内には放流サイズを示す角材がある

◉山口 新一船長(写真左)

How to attach fishing bait

エサの付け方

★完成

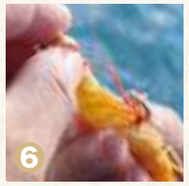
◀孫バリを腹側（頭と胴体の継ぎ目付近）へ刺す

▶頭側から孫バリのハリ先を抜く

◀尾羽根をカット。根元を残すようにして切るとエビがズレにくい

▶親バリを切り口から刺す

◀ハリ先がエビの4～5節目までできたら腹側へハリ先を抜く



▶エビが曲がらずに付けられればOK